

## SDGs を踏まえた公益性の高い研究テーマを導出するための創造的思考法

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科

品川啓介

### 背景

「環境問題、社会問題、経済問題」の解決に焦点を当てた SDGs は、研究内容にも影響を与え始めている。実際に Scopus (Elsevier VB) などの論文書誌データベースを用いその動向を分析すると、経済活性化と親和性の高い医薬やエネルギー専門領域の科学論文数は急増している。その一方で貧困の解消や教育の充実に関わる論文数はまだ少なく、そして僅かに増加するのみである。「研究者が SDGs における公益性の高い項目を研究テーマとして認識する難しさを現しているのではないか」という問題意識のもとこの領域において実りある研究テーマを導出するための創造的思考法の概念について議論する。

### 研究方法

SDGs の既存骨子である「環境的、社会的、経済的」の解決と、本研究の提案する新しい骨子の「環境的、社会的、公共的利益」の解決とを念頭に研究テーマを導出した際の結果を比較し議論する。具体的には、対象として自然科学や社会科学の大学院生を選び、仮の課題を複数提供し、事象の観察→視点の移動→発想といった過程をおしブレイン・ストーミングを行いこれによって導出される研究テーマの違いを比較する。

### 途中経過

予備実験では、「SDGs に資する VR は何か？」という仮の課題に対して以下の結果を得ている。

既存骨子を念頭に置いた回答

→「製品開発の際の試作の一助となる VR」

新骨子を念頭に置いた回答

→「全国の図書館の図書を集めた整理したバーチャル図書館を利用できる VR」

これは、SDGs の骨子を変えることによって大学院生の視点が変わる可能性を示している。「環境、社会、経済」の既存の骨子は、公益に関連する研究テーマの導出にはあまり効果的でないことを、その一方で、「環境、社会、公益」の新骨子は寄与する可能性を示している。認知心理学では何も無いところから、新しいアイデアは生まれないとする考え方があり、予備実験とこの考え方を踏まえると公益の文言が SDG の骨子として明示的に記述されない限り、公益を強調する研究テーマを導き出すことは困難であることを予想させる。以上を踏まえ、公益性の高い研究テーマを導出するための創造的思考法の方向性を探る。